

「ポット」
人の部落

第二十二
日の行程
パナメッ
キに宿す

渡
第三回
の
入浴
以來

來無人の境に在りしもの十數日、其間千篇一律索寞危險の山道に厭きし際に於てをや。蓋し「ポット」人は、是より以南、レー一帯の山間に住居する土人にて、喇嘛教を奉し、農を本業、游牧を副業とし、服裝風俗共に古代の趣を呈す。彼等特殊の言語を有するも、葉爾羌カシミヤの中間に介在して、彼此に往來するが故に、雙方の語を解する者尠からずと。

谷に沿ふて東行午後六時十五分、行程八里餘、タクンヤ（人家約五十）に到着す。

一七、崑崙山中パナメッキの温泉

七日氣温午前四十度、午後六十二度、午前九時二十分出發、同十時二十分、行程僅々一里餘を以て、パナメッキに到着す。蓋し此地人家僅に十五戸を有し、荒涼たる一寒村に過ぎずと雖も、温泉の湧出あるに因り、特に二日の滞在を爲せり。此行、渡清以來入浴し得たるもの前後三回、其第一回は臨潼の華清宮温泉に於てし、第二回は烏魯木齊の蒸湯に於てす。此地の温泉は無味無臭、熱度亦通常にして、「チーハン」及揚柳深き處に在り。聞く前途尙ほ數個の難所ありと云ふも、今や危險界は七八分經過し盡し、世界に有名なる崑崙山脈中に於て清國の垢と英領の垢とを同時に洗ひ去